

日時：平成 23 年 2 月 23 日（水曜日） 15 時～17 時

場所：農林水産政策研究所セミナー室

シリーズ第 3 回「食料需給セミナー：カナダの食料需給状況」

宇都宮大学 准教授

加藤 弘二氏

講演要旨

1. カナダ農業の概況

農業部門別産出額の推移をみると、1997 年以降、畜産の産出額が耕種農業の産出額を上回っていましたが、2007 年からは世界的な穀物価格高騰等を背景として、耕種農業が畜産を上回っています。

州別に見ると、平原 3 州と呼ばれるサスカチュワン、アルバータ、マニトバで麦、キャノーラ等耕種農業の産出額が高い一方で、オンタリオ、ケベックでは酪農を中心として畜産の産出額が高く、またアルバータで肉牛を中心として畜産の産出額も高いといったように、州ごとに多様な農業が展開されています。

耕種農業のうち、小麦、粗粒穀物（とうもろこし、大麦等）の収穫面積が減少傾向にある一方で、大豆、キャノーラ等の油糧種子や特殊作物（各種豆類等）の収穫面積が伸びています。

2. 長期的な農産物貿易の推移

カナダは、米、蘭、独、仏、ブラジル、ベルギー、伊に次いで世界第 8 位の農産物輸出国（約 370 億ドル）で、純輸出額も約 114 億ドルにのびります。

約 50 年間の長期的な農産物輸出動向を概観すると、1960 年代には輸出額の過半が小麦でしたが、現在は 10%程度まで低下し、油糧種子や植物油のウェイトが高まっています。また、牛肉、豚肉等の畜産物の輸出は、BSE の影響等もあり、ここ数年は低下していますが、長期的にはシェアが拡大しています。

大麦等の粗粒穀物の輸出シェアが低下していますが、生産は減少しておらず、これは

飼料輸出から輸出向け畜産のために国内需要が増加してきたことが要因です。

主要輸出農産物は、シェアは減少しているものの、単一品目としては、小麦の輸出額が最大で、世界市場に占めるカナダの占有率が高い品目としては、キャノーラ、レンズ豆、エンドウ、オート麦、亜麻仁があげられます。

3. 主要輸出農産物の需給動向

小麦、大麦、とうもろこし、キャノーラ、大豆の 1961 年以降の生産動向について、収穫面積、生産量、単収の動向が、別添配付資料のグラフに基づき、紹介されました。

国内需要については、デュラム小麦、それ以外の小麦、大麦、とうもろこし、キャノーラの食用、工業用、種子用、飼料用、ロス比率が示されました。

代表的な輸出品目であるデュラム小麦の輸出先国として、伊、米のほか、モロッコ、アルジェリア、チュニジア等の北アフリカ諸国の割合が高いことが特徴的です。

4. カナダ農業の中期見通し

原料農産物の輸出から加工度の高い品目の輸出へのシフトが企図されています。

（文責：株田文博）